

会議名称	第1回地域情報化推進委員会
日時	平成19年6月4日(月) 19:00～21:30
場所	議会第1委員会室
出席者	地域情報化推進委員会：荒木四郎、荒木弘子、河合仁子、佐藤雄一、菅沼孝行、鈴木武史、橋山昌人、深田雄子、古山良太郎、山下真弘、坂尻規康、渥美公雄 戸塚進也市長 事務局：廣畑、早瀬、土屋、戸塚、山城

1 開会

2 委員の委嘱（市長）

3 市長挨拶

- ・市役所の中で一番ITに弱いのは私だが、企画総務部長を筆頭に職員は進んでいるため、掛川市のITの水準は全国の自治体の中でもかなり上位である。
- ・市のホームページにも大変たくさんの方がアクセスしてくれ、ありがたい限りだと思っている。・バナー広告や、e-じゃん掛川も皆さんのお力添えで充実したものになっており、その輪はどんどん広がっている。
- ・私の弟が大学院の教授をしており、IT関係にも詳しいので、部長やIT政策課の職員と共にどうやったら掛川市民の方々にITを近づけることができるかについて、勉強してくれることになった。
- ・10月には市民の皆さんに多数お集まりいただいて、親しみやすいIT社会ということで教授を中心にシンポジウムを開催することも準備している。
- ・掛川市はこれだけ市のITが進んでいるのだから、市民の中にもっと日常化・定着化させ、日本全国にITの掛川として売り出したらどうかと考えている。
- ・戸塚教授とも、皆さんと懇談する機会を設けたいと思っている。
- ・インターネットは良い面ばかりでなく、悪い面もある。(例：自分のホームページを悪い方向に利用されてしまった。)
- ・インターネットの悪い面など、掛川市の問題点等についてもコメントをいただきたい。
- ・私の母校の玉川学園の学長は、ITのもっとも進んだ教育をやるようとしている。学長が言うには、その内大学生は大学に来なくてもよくなり、自宅で勉強ができるようになるとのことで、どこまでIT化が進んでいくのか見当もつかない。
- ・ITをどうやってより良く、より豊かに、より人間のために活用していけるかということのみんなで考える時代になっている。
- ・任期中、皆さんからご提案、あるいはお叱り等もいただき、掛川市がITを通じてますます市民のために役立つ市役所になっていくよう、皆さんのお力添えをお願いする。

4 委員会設置の目的（事務局）

5 自己紹介

6 委員長・副委員長選任

(事務局) 委員長は委員の互選により定めるとされているが、いかがか。

(委員) 古山良太郎さんが、前回の検討委員会でも主導していただいたので、よろしいかと思う。

(事務局) 古山さんという声が上がったが、いかがか。

――拍手多数――

(古山) 了承しました。

(事務局) 副委員長は委員長が指名することとなっているが、委員長にご指名いただきたい。

(委員長) 菅沼さんをお願いできればと思うが。

(事務局) 菅沼さん、いかがでしょうか。

(菅沼) 委員長のご指名なので、受けさせていただきます。

7 委員長・副委員長挨拶

(委員長) 皆さんの意見・提案をどんどんいただいて、進めていきたい。ご協力をお願いする。

(副委員長) 自分自身いろんなことを吸収する場にさせていただきながら、務めさせてもらいたい。

8 協議報告事項

(1) 平成 19 年度スケジュールについて (事務局)

(2) 「掛川市の地域情報化への提言」と対応について (事務局)

○ I T サポートコーナーについて

(委員) I T サポートコーナーの概要と、相談内容を説明されたい。

(事務局) I T 政策課の外に簡単なロビーを作り、市民の方からの問い合わせで、電話ではわからないときは、ここに来ていただいて対応するということではじめた。人数は、10 人以上。e-じゃん掛川の操作の仕方が多い。個人でホームページを作りたいという人に開設の手伝いをしたり、ワードやエクセルの操作、フォントのキャッシュが壊れたり、使えるフォントが減ったとか、結構様々ある。ホームページの立ち上げとか、ワードやエクセルの話になると、民間のパソコン教室等に行っていただくのが大前提で、ほんの入口部分だけ指導している。交流センターは大須賀は新設で、大東は改築して設置するので、I T 相談コーナーを作っていたらこうと、配線等は担当課に話をしている。それらの運用については今後検討を重ねていく。

(委員) 自分がやっているパソコンクラブでは、家でやっていてわからないときにクラブで教えてもらえる。私もウィンドウズビスタに変えてトラブルが多いが、マイクロソフトのサポートセンターに電話してもつながらないので、切ってしまう。本を買って見てもわからない。市民の中でも頓挫している人がかなりいると思うのだが、救済する手段が地域にはない。それを改善するためにパソコンクラブをはじめたが、十分でないので、応えてくれるセンターのようなものがあれば、もっと底辺が広がるのではないか。

(事務局) 前回の地域情報化検討委員会の中でも I T サポートセンターの必要性を強く発言されていた。市としてすぐには出来ないのですが、I T 政策課でできる範囲でサポートコーナーを設置した。

○市行政のIT化の推進について

(委員) 民間企業では、トップと平社員がメールでやりとりする時代だ。掛川市はe-じゃん掛川を導入したりいろんなことをやっているが、そのトップの方がホームページやメールを開くことができないのはまずいのではないか。それでは掛川のIT化も進んでいかないのではと感じる。そういうこともあり、最近は市長にはメールを送るようにしている。その内自分で開いて出すようになるかなとは思いますが、実際返事は手紙や電話で来る。

掛川市内には200の自治会がある。月1回区長会があり、市からいろいろな連絡や要請があるが、インターネットやメール、e-じゃんというものが発達していながら、市からの情報は相変わらず紙で来る。そういった意味で一番遅れているのは掛川市の行政ではないか。最近はメールで入るようにもなったが、行政そのものがもう少しIT化を進めないと、市民ベースまで来ないのではないかと思う。ぜひ市役所内のIT教育もお願いしたい。

(事務局) 市長は非常に忙しい方なので、IT政策課からも市役所におけるネットやメールの使い方について説明させていただきたいと言っているが、なかなか時間がとれない。また、そういった部分をカバーするために秘書もおり、市長宛のメールは秘書が開いて市長に相談し返事を書くという対応をとっている。

市長は自分はわからないと言っているが、戸塚教授や企画総務部長からアドバイスをいただいております。ITに対する認識はしっかり持って、進む方向を理解していただいている。今朝のIT推進本部会議でも、今年のIT施策の方向性を決める6項目の提案について了承いただき、事務局案以上に進める意見もいただいた。

庁内のIT化についても、なかなか進まない。ホームページにしても市民への啓発の一環としてではなく、余分な仕事という意識が職員の一部にあるので、ホームページの作成講習を行いながら少しでも底上げをしたいと思っている。

○自治会のIT化について

(委員) 区長はおじさんが多いので、パソコンにも弱い人が多い。地域振興課に音頭をとってもらって、区長だけのIT講習を開けば違ってくるのではないか。トップがパソコン音痴だと、なかなかIT化も進んでいかない。区長会の名簿を出す場合も、今までは名前・住所・電話番号だったのが、最近はeメールアドレスもちゃんと入っている。書いている人は少ないが、そういう方向に区長会も向いているので、IT政策課でもお手伝いしてもらえれば、進んでいくのではないか。

(委員) 私も委員の意見に賛成だ。区長になったから、パソコンをやりたい、エクセルをとにかくやりたいという方が来たりするが、すぐには難しい。

ワープロはできたけれども、壊れてしまいパソコンにしたが、ワープロのイメージで考えるので、自信がなくなってしまったという、かわいそうな方もいるので、文章を作ったり基本的なことを教えてもらいたい。自分ができると、地域の人にも便利だと言ってくれる。

(委員) 今までは自治会の役員に対し通知をいちいち配っていた。最近はeメールで流せばポンと伝わる。他の検討委員会でもメールで案内する。そんなわけで、パソコンを使わないと恥ずかしいというムードになった。動機づけがしっかりしていれば、そういった方向に向くものだ。だから、組員には紙で渡すこともあるけど、基本的には紙を使わなくなった。

(委員) 和田岡地区に住んでいるが、一足飛びに皆さんメールでやりましょうというのはなかなか難

しい感じがする。若い人はメールも扱うが、ある時期紙とメール両方で行っていかないと進まないのではと思う。

(委員) 私もそう思う。私たちが紙で案内するのが基本の1つ、回覧等では見逃してしまう人のためにコミュニティ誌、若い人は見ない人もいるので、ホームページもやっている。このようにやっていると、ある程度進んでいく感じはする。

11月に自治会のホームページを開設して、月600回のアクセスがあるので、自治会内には定着していると思う。作りっぱなしではなく、自治会の情報があればすぐ更新するようにしている。今日会議があれば、今日の夜にはホームページに上がっている。

(委員) 和田岡地区は、ネットの回線速度が出ない地域なので、インターネットでの公開等がやりにくい環境にある。

(委員) 私の地区の役員は、定年したおじさんが多いが、パソコンを買ってやっている。そういうのを使おうという、区のムードがあるのかなと思う。掛川には200の自治会があるが、ホームページをやっているところは他にない。

(委員) 他の自治区の方に、ホームページで楽しんでいると話すことはあるか。

(委員) 会議等で、今度ホームページを開設したのでどうぞとか、PRはしている。

(委員) 一緒に楽しむと広がってくるかなとは思いますが。

(委員) 楽しむ内容ではない。あくまでもコミュニティ内の情報伝達に使う。

(事務局) 岡山市が各町内会のホームページを作って、大々的にやっている。

(委員) 掛川市ホームページの自治会のところから、旭ヶ丘区のホームページに入ることができる。IT政策課に指導いただいた。

○県光ファイバ整備構想について

(事務局) 現在掛川局管内にしか光ファイバは来ておらず、NTTに問い合わせたところ今後拡張する予定もないとのこと。世帯数では6割強をカバーしているが、南や北の方は全然来る予定がないという状況だ。昨年9月の県議会で知事が光ファイバを全県的に整備したいと発言し、県当局もそれに沿って光ファイバ整備構想を作ったところだ。県の考えでは、4年間をかけて光ファイバを整備したいとのこと。来年度の予算要求に間に合わせるために、各市町にそれぞれの計画を作れという指示が来ている。掛川市でも議会にも相談しながら作業を進める。

○情報化シンポジウムについて

(事務局) 情報化シンポジウムというのを考えていて、光やブロードバンドの整備、利用促進につなげていきたい。詳細は別紙のとおり。

○セキュリティ教育について

(委員長) 小中学校へのセキュリティ教育という案は、事前に教育委員会等に働きかけてそのような事ができるのか。

(事務局) 今日のIT推進本部会議の中で、教育次長同席の下この話をしている。中学生になるとネットもどんどんやっていて、危ないところまで入り込むこともあるので、放っておけない。

(委員長) シニア世代のことが中心になっていたが、子どもは覚えるのが非常に速く、どんどん行ってしまう。私のところでもネットに関するセキュリティ面について体験させていたが、これか

らの子どもの事なので、非常に大事だと思っている。

○IT人材の活用について

(委員) 掛川市の取り組みは非常に先進的だと思っている。e-じゃん掛川も全国で実施している 11 の団体の 1 つである、自治会がホームページを持っているという事例もある。いろんな町の仕事をする中で、市職員のレベルは高いと思っている。後は民間の方々を有効に活用することを強く感じている。例えば犬のおまわりさんでは、犬まで防犯に活用している、子ども 110 番の家に旗まで掲げてここに飛び込んでいいよとかしている。そのような感じで、例えば I T 110 番といったお宅に駆け込んで教えてもらおうとかができないかと思う。

私の事務所にいたデザイナーが I T に関してものすごく詳しいオタクで、それを聞きつけた人が教を請いに行くと、仕事そっちのけで教えていた。こういう I T なのにアナログな関係の活用の仕方というのがあると思う。

(事務局) 昨年委員が言われたような提言を受けたので、地域における I T 人材の発掘・育成という中で、市内の民間企業の人材活用の協力の相談に行ったり、地域 I T リーダー育成講座を作ることも計画している。ただ、どこまで協力をいただけるかは行ってみないとわからない。

(委員) 今の委員の意見は素晴らしいと思う。同期の人が回線を入れたいとか、設定とかの話では、わかる範囲でやってやるよとか、仕事とは別にそういった支援はする。ただ電話で言ってもわからない場合はそこに行かなければならないので、ちょっとつらい面はある。

○地図情報の有効活用について

(委員) 地図情報の有効活用だが、自治体が持っている GIS 等の情報を市民側に使えるように公開していくということかと思うが、他市の状況で行くと、防災マップを Web で公開している例がある。防災上の危険地帯とか工事情報とか、不審者情報とかを公開している自治体もある。

○コールセンターについて

(委員) コールセンターについても伺いたい。

(委員長) 藤沢市では NTT の局舎を利用してボランティアの方々が実施している。

(委員) 市の関係の業務だと、浜松市の水道や粗大ごみ等の受付センターについては NTT で支援している。市民からの問い合わせは奥が深いので、どう取りまとめるかが難しいのではと思う。

○IT利用の健康面での影響について

(委員) パソコンをはじめてから、年のせいかもしれないが、ここ 4 年くらいの間にものすごい視力が落ちた。最近はじめた人たちも、さっぱり目が見えないようになったという。I T を推進していく立場だが、健康面での警鐘を、セキュリティ面も大事だが、注意を喚起していくことが必要ではないか。1 日何時間もやった時の影響は怖いので、そういう方面でもいい方向を検討できればと思う。

○e-じゃん掛川について

(委員長) e-じゃん掛川はその後どうか。

(事務局) コミュニティは以前よりも活発になり、投稿も増えている。1 つは委員のおかげで、カレ

ッジの受講生 60 数名がコミュニティに入っているということで、そのコミュニティで毎日何かしらの書き込みがあるということもある。それ以外にも行政系のコミュニティで、地球温暖化防止のコミュニティができて、7～8名の登録がある。またその事務局の非公開のコミュニティもあって、そこでも結構意見交換がされている。事務局からe-じんの注目コミュニティについて説明させていただく。

環境保全課が、温暖化防止の市の計画を立てるにあたって一般の方から意見を受け入れながら行うため、そのためのコミュニティを立ち上げた。みんなで作ろう地球との約束行動計画という名前で、まだ作ったばかりだ。承認はいらないので、誰でも入れる。新しい試みだ。

また、テニスグループのコミュニティで、活動日などメールだと1対1の連絡しかできないし掲示板だと下からずっと見なければならぬが、参加できない日を投票形式で入力できるようにして日程を合わせるなど、グループではこういうやり方が一番使えるのではないかと思う。

もう1つ、動画をe-じんに載せた事例を紹介する。大玉ころがしの動画をここにアップさせた。YouTubeという動画投稿サイトを利用して表示している。一般的には画像を貼る方が多いが、こうすることにより、より臨場感があり、説得力のあるコメントが掲載できる。

(委員) ライフスタイルデザインカレッジのコミュニティは動いているほうか。

(事務局) 一番動いている。

(委員) 私はNPOスローライフ掛川の理事だが、去年からライフスタイルデザインカレッジというのをやっている。このカレッジでコミュニティの活用を今年4月の開講時から開始した。9つのアクティビティプログラムとベーシックという基礎講座があり、それぞれ担当がいる。各プログラムでやることの告知と、番外編でこういう集まりをやるとか、プログラム終了時の報告があったり、プログラムに参加した人たちの会話がこのコミュニティで展開されたりと、有効に活用している。

このことが、ただ便利ということだけではなくて、機能そのものをうまく使えば多面的に価値が上がってくると思っている。これはe-じん掛川の普及が地域情報化の推進に非常に役立つものであると感じている。e-じん掛川への勧誘が情報化推進を促しているという気がしてならない。ただ、入るにはどうしたらよいかとかを誰かに聞こうとするとき、市役所とか学習センターとかに聞くといった敷居の高さではなく、隣の人が入ったから聞いてみるかとか、そういうことだと思う。

(事務局) このコミュニティだけで月3,000アクセスくらいある。

(委員) 行政の係単位でもっともっとコミュニティが充実すればよいと思う。

開くと、へんな意見が出てくるとかそういう恐れがあるのか。

(事務局) そういうわけではない。上司に言われてコミュニティを作ったけれど、それをうまく生かして自分の仕事につなげようという部分が低い。そこまで行かずに何もせずにいる人もたくさんいる。

(委員) e-じん掛川でその辺が非常に問題だと思う。せっかく作ったのに。

(事務局) このごろは各課にIT政策課の職員が回って、e-じん掛川の有効な活用の仕方について話をし、活発でないところは重点的に行って、PRを進めている。

例えば、道路河川課の道に穴が開いているという情報も、穴を見つけたとか埋めたとか、そういう情報が結構出ているので、道路河川課が一生懸命やってくれていると思っている。地球温暖化のコミュニティについても、東京の方から掛川ですばらしいものを作ったという評価を

いただいている。委員のご指摘のとおり、今一歩という部分もあるが、少しずつ改善されてきていると思うし、この間の地震についても震度4が起きる前の震度2の地震の情報について、交通防災課がトピックを上げ、体制が整備されるに伴い、どんどん情報を発信した。IT政策課でも半日災害モードに切り替えた。

全国11団体の中でも、これだけできるのは掛川市だけだと総務省の方からも評価をいただいている。

(委員) 過大評価ではないか。

(事務局) 他のところも立ち上げてはいるけれども、そこまでは出来ていないのが実態だと思う。委員の叱咤激励をいただきながら、がんばっており、まだまだというイメージは持っているけれども、少しずつ前進している。活用していないコミュニティで、閉鎖をするかと聞くと、いざというときには出したいからおいてほしいという話もある。意識は少しずつ変わってきている。

(委員) 市長が1つコミュニティを立ち上げたら、うんと変わるのではないかと思う。それを先にやったらみんなついてくる。

(委員長) e-じゃん掛川は地域情報化推進委員会のコミュニティの計画もあるのか。

(事務局) みなさんのご了解を得れば、地域情報化推進委員会というコミュニティを立ち上げようかと思う。

(委員長) 議事録はホームページで公開するのか。

(事務局) 公開する。

9 閉会 (21:30)